

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年12月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873100762		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム もくれん	ユニット名	西館
所在地	〒311-3412 茨城県小美玉市川戸1425-14		
自己評価作成日	平成26年5月10日	評価結果 市町村受理日	平成26年12月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873100762-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年7月8日	評価確定日	平成26年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然環境に恵まれ、その時々季節を感じその人らしさを大切に安心して生活ができる、家庭的雰囲気の中で、楽しみ事を中心とした介護を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地域の青年団がボランティアで事業所敷地内の草刈りをしてくれたり、近所の方が季節の花を届けてくれたりしているほか、事業所からは納涼祭のチラシを持って管理者が一軒ずつ訪問して参加を促すなど、日頃から地域住民と交流している。

事業所内にはお菓子の包装紙や風呂敷を再利用して利用者と職員で作った花束を飾ったり、職員が持ち寄った余り布を利用したパッチワークのタペストリーを飾ったりしている。

自家菜園で利用者と職員が野菜作りを行うなど、利用者が参加できる作業を取り入れ、生き生きと生活ができるよう工夫をしている。

運営母体が医療機関のため、緊急時の対応がいつでもできる体制を整えており、利用者や家族等の安心につながっている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念をつくり見やすい所に掲示しています。一人1人常に意識し、時には話し合いながら実践につなげています。	職員で話し合っ事業所独自の理念を作成し、事業所やユニット毎の玄関に掲示しており、職員も暗記しているほか、ミーティングでも理念にそって実践に取り組んでいるかを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々との交流を大切に、行事などへも一声かけて参加をしていただいている。毎年、近所の方達が空き地の草刈をしてくれるなど、地域とのつながりを大切にしている。近くの小学校との交流もでき出掛けたりお便りをいただいたりしている。	事業所の夕涼み会の広告を近隣住民宅に配布して参加を得ている。 地域の青年団が毎年8月の第1日曜日に敷地内の草刈りに来訪してくれ、お茶等を出して交流を図っている。 地元の小学校に花見に出かけ、小学生のリコーダーや歌の発表を聞かせてもらったり、天候等により行けない時は、小学校から利用者全員に折り紙で作ったメダルを届けてくれるなど、地域住民と日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣への買い物で認知症の方々の理解を深めてもらい利用するにあたって協力も得ています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族の方より色々な意見を出してもらいサービス向上に活かしている。	運営推進会議は市職員や民生委員、家族等で2ヶ月に1回開催している。 民生委員や家族等は2年毎に交代し、委員の構成が同じにならないようにしている。 運営推進会議では報告が多く、事業所のサービスについて意見を出してもらうまでには至っていない。	近隣のコンビニ店長やスーパー店長などが、利用者の買い物時に段差等を気にかけてくれていることから、日常的に事業所に関わりのある人を委員に選出し、運営推進会議に参加してもらうことで幅広い意見を得てサービスの質の向上に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携を密に行ない、事業所の実績を伝えたり相談したり協力関係を築くよう取り組んでいます。	管理者が介護保険更新申請や事故報告のために市役所に出向き、担当者から事故を減らすための方法についてアドバイスを得ている。 金銭管理について不安のある利用者には、地域包括支援センターに相談をし、権利擁護事業の利用を勧めてもらって問題解決を図るなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	今年に入り身体拘束の実施があり、家族等からは書面で同意を得ていたが、身体拘束マニュアルはあるものの、研修の記録や経過観察記録、再検討記録を残すまでには至っていない。 現在は身体拘束が必要な利用者が退所したため、行ってはいない。	職員が身体拘束への理解を深めるために、年間計画を作成して身体拘束についての研修を行うとともに、家族等から身体拘束の同意を得るだけでなく、定期的に経過観察を行い、検討をしながら記録に残し、身体拘束をしないケアが行えることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしない、見過ごさないを徹底し防止につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性があれば、関係者と話し合い制度を活用できるよう支援します。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間を設け納得のいく説明をしています。また気づいた点や疑問に思っていることでも、聴く体制作りをしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自由ノートやご意見箱を玄関横に設け意見・要望など気が付いた点（中々言えない部分）を気軽に記入してもらっている。	玄関に意見箱を設置するとともに、家族等が意見を出し易いように自由ノートを置いているが、最近は書かれておらず、意見箱にも投函実績がない。 前回の外部評価で提案された「家族等への無記名のアンケート」は実施されておらず、意見を汲みあげ易くする仕組みが出来るまでには至っていない。	利用者が特定されず家族等が意見を出し易いように、無記名のアンケートを実施し、出た意見等を運営に反映させることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見などを聞く機会をつくり（昼休み・ミーティング）働きやすい職場作りをしている。	管理者は職員の昼休みや朝礼時に職員から意見を聞く機会を設けている。 職員から「カラオケマイクに歌のチップが付いたものを購入し、利用者が歌を楽しめるようにしてはどうか」との意見等を受けて購入し、利用者がカラオケを楽しめるようになるなど、職員の意見等を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体病院側ですべて行なっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	すべての職員に研修を受ける機会を与え、介護技術や質の向上となるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交流する機会を増やし向上につなげていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	知らない所での生活に対する不安は、想像以上のものかと思われまます。心配事、不安、要望などに耳を傾け、少しずつ信頼関係作りに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の契約には、納得のいく説明をしている。家族からの要望、困りごとなどを良く聞き、何かあれば気軽に話をしてもらえる雰囲気作り、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を生活の中で観察し、今この人が何を必要としているのかを見極め対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人と苦楽を共にし、一緒に暮し支えあいながら関係を深めていけるよう努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に面会に来ていただけるような雰囲気作りや、ゆっくりしていただけるようさり気なく言葉かけをしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人、知人等ともずっと関係が途切れないよう、墓参りにいく、電話や手紙の取次ぎ面会があるよう支援に努めている。	利用者が友人や子どもへ電話をする際に、職員がダイヤルを回してあげたり、先に話しをして趣旨を伝え、話し易いように支援している。 利用者の書いた葉書の宛名書きや文字の書けない利用者への代筆を行い、馴染みの人との関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の力の関係をつかみ、上手くいくよう仲を取り持ったりすることもある。トラブルのないよう見守り、一緒に生活する仲間となつて行けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までと変わらず、近くに来たときには、立ち寄っていただいたり、相談を受けたりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族の面会時に家族からとか、本人と雑談しながら、意向を汲み取るよう努めている。	利用者や家族等からは面会時や電話をした際に思いや意向を把握している。意思疎通が困難な利用者については、行動や表情、しぐさなどから利用者の意向にそった支援ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりや、サービス利用など家族の方からの話や情報提供書などから把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごしかたは自由である常に声かけや観察をしながら見守っている。自分でできる事は自分で行い、できない事への対応に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者が全員集まって話し合いを持つ事は難しが、介護計画の見直しは、変化に応じその都度行なうようにしている。	年1回アセスメントを行って介護計画を見直し、利用者や家族等から同意を得ている。モニタリングを行っているが、介護計画の計画期間を適切に記載するまでには至っていない。	介護計画作成時には、有効期間を定めたり、利用者や家族等、関係職員でカンファレンスを行い、チームで介護計画を作成することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日常生活の様子や気づいた事などを介護記録、ケース記録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や訴えをよく聞き、必要に応じて支援やサービスの多機能に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々、小中学校、ボランティア等と協力し合いながら、安全でその人らしい穏やかな生活が出来るよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、今までと同様のかかりつけ医にかかれます。納得が得られた治療が受けられるよう支援しています。	入居時に利用者や家族等とかかりつけ医を相談して決めている。 利用者全員が協力医療機関での訪問診療や外来受診を行っているが、皮膚科や歯科、眼科については協力医療機関に診療科がないことから、家族等の付き添いか職員が通院支援をしている。 塗り薬や目薬など新たに追加処方となった薬は、利用者や職員が忘れないように居室に書いて貼っている。 状態の変化は、管理者から家族等に電話や面会時に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違うこと、小さな事なども訪問看護師に伝えていきます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院との情報交換、連絡を密にし、安心して治療が受けられるよう病院側との関係作りを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時点で家族の方々と、十分な話し合いを行い説明しています。	管理者は契約時に医療行為を行う看取りを行わない方針であることを利用者や家族等に説明し、書面で同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員がいざと言う時に確実、適切に行動がとれるよう、日頃より実践力を身につけられるよう定期的な訓練を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を行っている。今後は、地域との連携のもとに訓練を実施できるよう働きかけていきたい。	消防署指導のもと夜間想定も含めて年2回避難訓練を実施している。 管理者が毎回自宅を訪問して地域住民に参加を依頼しているが、参加を得るまでには至っていない。 避難訓練の実施記録は反省等を含めて残すまでには至っていない。 災害に備えて乾パンや缶詰、水、米、毛布、オムツ等を備蓄しているが、一覧表で管理するまでには至っていない。	避難訓練に地域住民の参加を得るための働きかけ方法を検討し、地域住民の参加を得ることを期待する。 避難訓練後に反省なども含めた避難訓練実施記録を作成し、今後の避難訓練に活かすことを期待する。 備蓄品については賞味期限や在庫の確認を行い、不足な物の補充をするなど、管理し易いように一覧表を作成することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時は一声かける、トイレの時はカーテンを閉めるなどはやっている。過去の生活歴など本人をよく知る事につとめ、言葉を選んで話し、落ち込んだりしないよう、わからないようでも解っていることを、念頭におきかかわっていききたい	管理者は職員に利用者への言葉かけには尊厳を大切に行うよう朝礼時に話しているが、マニュアルはあるものの研修を行うまでには至っていない。 個人情報の使用目的については書面で同意を得ているが、事業所の行事の写真や事業所だよりに掲載している写真についての同意を得るまでには至っていない。 利用者の個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる棚で保管している。	人格やプライバシーに関する内部研修を行い、職員の理解が深まることを期待する。 写真の使用目的について明確にし、利用者や家族等の同意のもとで使用することを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の目線に合わせて、お話ししたり意見を聞いている。耳の遠い方には身ぶりなども交えている。ゆったりとした時間を持ち入居者がさりげなく話しかけてくれる様な、雰囲気づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の特徴を把握し、入居者のペースにそって見守りながら一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回床屋さんにかかる事ができヘアスタイルも自由である。服装も1人1人好みの物を着ている。外出時、気温差がある時は適切な対応して、いつまでも若々しくおしゃれを楽しめるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は、見やすい所に掲示しています。挨拶は当番制にし皆さんやっています。食べたい物を聞いたり、季節の物をいただいたりとメニューも工夫をいれ、職員も一緒にゆっくと食事ができるよう雰囲気づくりに取り組んでいます。	法人本部の管理栄養士が作成した献立で、利用者と職員と一緒に調理を行っている。利用者はテーブル拭きやジャガイモの皮むき、豆のすじ取りなどを手伝っている。嫌いな食べ物については事前に本部に伝え、代替品を用意している。事業所独自に行事食を提供しており、事前に本部に依頼しておはぎや柏餅、水饅頭などが届いている。事業所では自家菜園できゅうりや茄子、トマト、おくら、ふき、苺、カボチャを収穫し、採れたた野菜で一品増やして収穫や食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表を作り、毎日食事の摂取量、水分量を記録し、月1回体重測定を行なっています。かたい物にはきざみやとろみをつけ、アレルギーのある人には別メニューを用意しています。個々の嗜好の把握に取り組んでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前食後にうがい・歯磨きをしている。できる人は自分で入れ歯の手入れをしている。それぞれ個々に応じて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくオムツを使用しない事を目標にしている。排泄パターンをつかみ、時間をみでの誘導や兆候など、見のがさないよう見守ると共に、自立に向けて支援している。	排泄チェック表を基に利用者の排泄パターンを把握し、排泄リズムに合わせてトイレ介助や誘導をしている。失禁した利用者には職員がさりげなく声かけを行い、トイレで交換を行う様にしたり、利用者や家族等からオムツが丸見えにならないように、エコバックの下に穴をあけ、そこから取り出すことで誰にも気付かれない様に配慮したりしている。寝たきりで布オムツを使用していた利用者が尿意を訴え、その頃から立つことも出来るようになり、紙パンツ使用でトイレでの排泄が行えるようになるなど、自立への支援を行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成して、早めの対応を心がけています。水分・適度な運動、乳製品の摂取など便秘予防に取り組んでいます。場合によっては下剤を使用することもあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日時は職員の都合となっています。一人1人の体調を確認してから入浴を行なっている、洗身や洗髪などできる人はやっていただき、順番には気をつけて、気持ち良く入浴できるよう配慮している。	週2回午前中に入浴を支援している。ユニット毎に入浴日が異なることから、利用者の希望があればいつでも入浴ができる体制となっている。利用者同士の入浴を希望した場合も職員が付き添い、利用者の意向にそって支援をしている。入浴を嫌がる利用者については、時間や職員を替えて声かけを行い、入浴ができるように働きかけている。菖蒲湯や柚子湯等を取り入れ、入浴を楽しめるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の睡眠パターンの把握に努めている。午睡の時間も十分あり、体調によりいつでも休めるよう支援している。苑庭散歩や適度の体操なども安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノート（薬の内容・副作用などが書いてある）を常に見る事ができる。のみ忘れや間違えて飲まないよう、見守り、確認をしている。何らかの変化があった場合は、直ちに医師に連絡をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物・清拭タオルを畳んだり、タンスの整理などできる事はやっていただいている。おやつを食べお茶を飲みながら昔話をしたり、週2回あるカラオケで歌ったり、ボール投げ、ラジオ体操、新聞購読など他にも楽しみ事をみつけられるよう支援していきたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見などの行事で外出できるよう計画している。家族と連絡を取り合い、一緒に出かける機会がもてるよう支援している。	利用者と一緒に近隣のコンビニエンスストアや食料品店等に散歩を兼ねて買い物に出かけることはあるが、自由に使える車が無いため、利用者の希望にそった外出支援を行うまでには至っていない。 利用者から外食の希望を聞いた場合は、家族等に依頼することで対応している。	自由に使える車両を事業所に配置し、認知症サポーターや地域住民の協力を得ながら、利用者の希望にそった外出支援ができることを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人は、所持しており外来に出かけたときなど買物をしてくる。職員が頼まれて買ってくる事もあります。近くに店があるので一緒に出かける機会をつくりたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があり、自由に使用できる。年賀状なども書ける人は出しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空港が近く防音には気を使います。洗面台がお湯の出る所と出ない所があり意見がだされ検討中の事もあります。家庭的なそして入居者が自分の力で動ける環境づくりをめざしています。	トイレには手摺が設置されたり、廊下や脱衣場は車いすの利用者がすれ違っても支障のない広さとなっている。 居間には利用者が寛げるようにソファやテレビが配置してあるほか、壁には行事の写真やパッチワークでできたタペストリーなどが飾られている。 玄関には昔利用していた木製の脱穀機や臼が展示してあるほか、休憩ができる椅子も配置されており、のんびりと過ごすことができる場所となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関わきのホールは広くとってあり、イステーブルが配置され、自販機も置かれ集う場となっている。そこで他の棟の入居者と出会いお話ししたりお茶を飲んでいる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みは自由である。カレンダーや行事の時の写真、季節の花など居室に飾り、家庭的な雰囲気を保ちながら心地よく過ごせるよう気をくばっている。入居者の家族が盆栽などを持って来て飾ってくれたりしている	居室にはベッドや箆筒、カーテン、布団、エアコンが備え付けられている。利用者や家族等は事業所から馴染みの物品の持ち込みが可能との説明を受け、利用者は仏壇や市松人形、カレンダー、写真、ぬいぐるみなど思い出の物品を持ち込み、家庭に近い雰囲気になるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、身体機能の状態に合わせて動く事ができるようになっている。自立した生活が送れるよう工夫して作られている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームもくれん

作成日 平成26年11月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	前回外部評価での家族への無記名アンケートを実施していない。	家族へ無記名のアンケートを実施し意見などを出し易くする	すでに行なっている同事業者のアンケート内容を参考に進めています	3ヶ月
2	6	研修の記録、経過観察記録を書くまでにいたっていない。	家族などから書面で同意を得ているがその後の経過観察の記録、会議録などを残されていないため記録を残していく	職員がより一層身体拘束について理解を深める為に、研修を入れる	6ヶ月
3	36	事業所の行事やもくれん便りに掲載の写真の同意を得られていない	人格やプライバシーに関する研修を行ない職員の理解を深める	写真についての同意書作成する	6ヶ月
4	35	年2回の避難訓練を実施しているが地域住民の参加が得られていない。訓練実施記録も残していない	地域住民の参加を得られるよう更なる働きかけを行なっていく	実施記録、反省を含めた記録を残して行き次に活かしていく	6ヶ月
5	26	介護計画の期間が記入漏れ	計画期間を入れる		3ヶ月
6	49	自由に使える車両がない	母体の病院に今後も働きかけていく	月一回の会議などで課題を出し話し合っていく	1年
7	4	日常的に事業所に関わりのある人を委員に選出し会議に参加してもらうことで幅広い意見を得てサービスの質の向上に生かす	会議に出席し意見を出す	近くのコンビニやスーパー等に働きかけてみる	3ヶ月